

「捨てられ、愛された主」

～アガペーの愛・神の愛～

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」。

ヨハネによる福音書 13章34・35節

この世の中では古今東西、変わることなく戦争や争いが繰り返されています。それらを解決することができるのは、経済力でもなく、教育でもありません。それは唯一、「愛」だけです。しかもそれは、人間のレベルの「愛」ではなく、「神の愛」、「アガペーの愛」だけです。

戦争や争いは、国と国、宗教と宗教、また、主義と主義で起こっているのではなく、人間の心の中から起こされています。それは、私たちの日々の生活の中で、私たちの心の中で四六時中起こっています。それは罪との戦いです。ヘブル書には、「あなたがたは罪と格闘するときに血を流すほどの抵抗をしたことがない」と書かれていますが、私たちはそこまで罪と格闘することはありえないと思っています。それは本当の罪の恐ろしさが分かっていないからでもあります。だからこそ、繰り返して罪を犯してしまったり、意地を張ったりしてしまうのです。私たちの中にある最も大いなる敵は、「鈍感」という敵だと思います。その敵が私たちを主から引き離しているのです。

ヘンリー・ナウエン(オランダ出身のカトリックの司祭であり、元ハーバード大学教授で、晩年には知的障害者のためのグループホームで知的ハンディーを持つ人々と共に祈りの生活を送った人物。1996年帰天。)の祈りの言葉をご紹介します。

「主よ。あなたについての思索にふけり、神学的観念や議論に熱中し、様々な霊性の歴史と伝統に興奮し、祈りと瞑想についての思想や観念に刺激を受ける……。これらすべては単に、放縦な貪欲、物欲、権力欲と同様、貪りの一種であるかもしれません。それゆえ、日々くり返し悟ります。あなただけが祈ることを私に教えることができ、あなただけが私をあなたの臨在の内に留まらせてくださることを。どんな本も、思想も、概念その他の何物も、あなたご自身が、これらの道具をあなたへの道となさなければ、私をあなたに近づけることはありません」

私たちの中には神様に近づけるものは何一つない。だからこそ、神様の方から私たちに手を差し伸べるために御子イエス様をお与えになった。このお方を想い、祈ることを通して、神様は私たちの中に神の愛を形作ってくださるのです。

私たちのためにすべてを捨てて、そして、私たちを完全な愛で愛してくださった主に心よりの感謝と賛美を捧げます！そして、私たちに与えられた愛の使命を果たすことができるように！